

Wish

ユニセフ兵庫ニュース



5/14 アメリカ人医師が見る
東ティモールの今



5/13 雨、笑顔、仲間...
神戸まつりパレードに参加

お知らせ

映像と音楽
のシンクロ

地球のステージ2

～ 国境を越えて～

とき 8月19日(土) 開場 14:30
開演 15:00

ところ コープこうべ生活文化センター
2階ホール(JR住吉駅下車、南東へ徒歩約8分)

入場料 (税込)
一般 (前売り)700円 (当日)1,000円
小・中学生 (前売り)500円 (当日) 700円
チケットのお求め...生活文化センター、協同学苑
コープカルチャーで販売中

地球のステージとは...

貧困や紛争に揺れる世界の姿を、ライブ音楽と大画面の映像、スライドによる語を組み合わせた、新しいタイプのコンサートステージです。

地球のステージ2の内容は...

タイ国境難民キャンプ・カンボジア診療所復興・イラン震災救援・パレスチナ・旧ユーゴスラビア...などでの支援活動上のシネマ、紛争の心の傷にも触れ、心のケアを通じた回復への道のりを伝えます。

地球のステージの進行役は...

桑山紀彦さん: 山形の精神科医で、NPO法人地球のステージ代表。途上国で医療支援活動を展開中。

共催: 日本ユニセフ協会兵庫県支部
コープこうべ生活文化センター
協賛: 兵庫県生活協同組合連合会
コープこうべ好和会

ユニ・ボラ塾

「国連憲章を読もう」連続開催

講師: 末吉洋文さん(帝塚山大学法政策学部助教授)



第1回目のユニ・ボラ塾の様子

参加無料[要予約]

第2回 7月22日(土)14:00~15:30

【会場】コープカルチャー西宮

第3回 8月26日(土)13:00~14:30

【会場】コープこうべ生活文化センター西館

第4回 9月16日(土)13:00~14:30

【会場】コープこうべ生活文化センター

第5回 10月21日(土)13:00~14:30

【会場】コープこうべ生活文化センター西館

アフリカ学習会

参加費は無料[要予約]

「アフリカ自転車5000km!!」

講師 山崎美緒さん
(幻冬舎『マンゴーと丸坊主 アフリカ自転車5000km』著者)
ケニアから南アフリカまで、8カ国走破の山崎美緒さんを迎え、こころと体で感じたこと、出会った人たちについてのお話です。

とき 7月15日(土) 13:30~15:30

ところ コープこうべ生活文化センター

「アフリカ紛争から見てきたもの」

講師 大津司郎さん(フリージャーナリスト)
大津司郎氏: アフリカとの付き合いは、学生時代のアフリカ農業実習から始まり、25年以上にわたる豊富な経験に基づき、野生の世界と時事問題の両面からアフリカを追求し続けている。日本人にはほとんど知られることのないアフリカ紛争地域に焦点をあてている。

とき 9月(予定) くわしくはお問い合わせください。

ところ コープこうべ生活文化センター

イベント出展、参加予定

● ひょうごヒューマンフェスティバル 2006 in とよおか

とき: 8月5日(土) 10:30~16:30

ところ: 豊岡市民会館ほか

● 兵庫県ふれあいの祭典

とき: 10月28日(土)・29日(日)(予定)

ところ: 柏原・丹波の森公園

● たべるたいせつフェスティバル

とき: 11月18日(土)・19日(日)(予定)

ところ: 神戸国際展示場

主催: 日本生活協同組合連合会

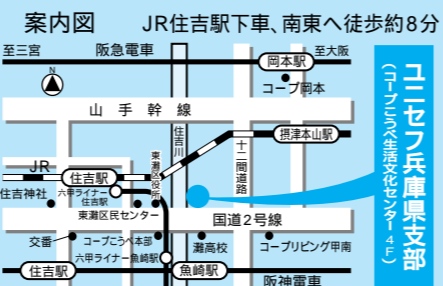
あ・と・が・き

お申し込み、お問い合わせは兵庫県支部まで TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830

Wish(願い)も回を重ね17号...1号からまる4年。世界ではその間にいろいろなことがありました。子どもたちの笑顔は少しでもふえたのでしょうか? 東灘区で事務局をスタートさせた支部が、そこを拠点に少しずつ活動範囲・世代が広がってあるのでもうれしことです。支部設立5周年に向けての企画・取り組みもさまざま..。皆さまのますますのご協力、ご支援、よろしくお祈りします。(K)

Wish Vol.17号(2006年夏) ユニセフ兵庫ニュース

2006年(平成18年)7月発行(季刊)
発行:(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部
〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18
コープこうべ生活文化センター4F
TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830
(平日の10時~16時)



ユニセフ兵庫支部
(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部

本紙は古紙100%の再生紙を使用しています。

Vol.17 (2006年夏)

ホームページ <http://www.office-bit.com/unicef-hyogo>



アフリカ学習会をはじめました

アフリカへの関心が高まっています。5月20、21日には、外務省主催の「アフリカン・フェスタ2006」が東京・日比谷公園で開催されました。兵庫県支部でも、昨年からはまっている「ユニセフ世界エイズキャンペーン」のことも含め、もっとアフリカを知ろうと学習会をスタートしました。アフリカの大自然や文化の魅力に始まり、HIV/エイズ、貧困、紛争、難民、ストリートチルドレンなどのテーマについて理解を深めていきます。人と人のつながりが子どもたちの未来につながることを願って、アフリカに目を向けること、知ることが私たちにできる支援の第一歩ではないでしょうか。



第1回 4月22日(土) 生活文化センター会議室

アフリカ(タンザニア)のことを知ろう!

まず初回は、参加者発表形式で実施しました。参加者手作りのタンザニアのお菓子も飛び出し、わきあいあいとした雰囲気の中、領事館のビデオも交えながら、タンザニアの基礎について学びました。

第2回 5月20日(土) 生活文化センター和室

支援の現場から



JICA青年海外協力隊員としてタンザニアでソーシャルワーカーをされていた廣田めぐみさんを講師にお招きし、支援の現場に触れました。国の概要・人々の暮らしぶり・言葉や孤児院での活動など、興味深いお話に質問も次々飛び出しました。



【予告】 7月15日 第4回学習会 山崎美緒さん
(幻冬舎『マンガと丸坊主 アフリカ自転車5000km』著者)
8月 第5回学習会[大阪支部主催の学習会に参加]
大井佳子さん(ユニセフエイズ対策事業担当)

第3回 6月10日(土) 生活文化センター西館会議室

サ・ファ・リ!



「サバンナの動物、そして自然と人の関わり合い」をテーマに、加藤直邦氏を講師にお招きし、プロサファリガイド(ムバタ・サファリクラブ)の5年間の体験から、動物保護について色々な角度からお話いただきました。子ども時代の加藤さんにとって「野生の王国」アフリカ。地平線の太陽、

アングルにおさまりきれない虹、国境のちっぼけな白い板、野生動物の楽しい写真の数々。しかし、国立公園のエリア拡大政策は、土着の狩猟採集民族の生活を圧迫しているとのこと。密猟者の多くは、生活のため・肉(食用)のために野生動物を狩る土着の狩猟採集民族、彼らにとって野生動物は食物なのです。(マサイの人々は遊牧民なので保護区での共存が可能)。狭い常識では計り知れないアフリカの広大さ、「生きる強さ」について考えさせられる講演でした。それに伴う問題の複雑さもそこには現実としてあるのだと予感しながら今後の学習会へ...

豆知識 加藤さんはTV世界チャンピオン(2006年5月放映)でも優勝されました、ご覧になった方もいるのでは?

9月 第6回学習会(最終回) 連続学習会開始前にお招きした大津司郎さんに再度来ていただき、5月に渡航されたルワンダの現状もお聞きしながら、スタディツアー直前の対策も含む学習会 詳細は6ペ - ジお知らせをご覧ください

交流 兵庫県支部活動 東へ西へ

姫路に「オリーブの会」誕生

県支部の登録ボランティアさんによる「オリーブの会」が誕生。姫路市の男女共同参画推進センターにも登録し、6月2日(金)にメンバーが初顔合わせ。



昨年7月の西宮交流コーナー開設に続く新しい活動拠点ができました。当面はユニセフについての学習会を中心に、7月のコープこうべの「平和のつどい」、11月の姫路市の「福祉まつり」や「あいめっせ」に参加し、カード頒布やユニセフ紹介活動に取り組んでいく予定です。また、子どもたちへの人形を使った講座など、出前講座の輪も広がっていきそうです。

活動エリアの拡大に伴って、それに関わるボランティアさんの交流の輪も広がっていくことを願っています。

Charter of the United Nations

(ユニセフ・ボランティア塾)
「国連憲章を読もう!」ユニ・ボラ塾連続開催



講師役の末吉洋文さん 帝塚山大学法政策学部助教授

第1回目のユニ・ボラ塾の講義はとてわかりやすく、あっという間に2時間が経過。テーマだけをみると一見難しそうですが、そこを講師の末吉洋文さんがとてわかりやすく説明してくださいました。今回から始まったこの企画は、ユニセフのボランティアや国際協力活動などに取り組むにあたり、「国連憲章について」学習していこうというもの。まず

は、ミレニアム開発目標や成立過程、目的や原則の部分、1条・2条が終わりまりました。全5回を予定。1回だけの参加でも結構ですので、一度のぞいてみてください。楽しい時間を過ごせます。



神戸市職員労働組合から 4/28
募金をいただきました

神戸市職員労働組合より「フィリピンレイテ島」への緊急募金をいただきました。大森委員長から、県支部の竹本成徳会長に手渡されました。



生活創造センターフェスティバル 5/27、28

ユニセフ活動の紹介やカードの頒布等、少しずつご支援いただく輪を広げようと、毎年参加しています。



関西エスペラント大会 6/11

英知大学で行われた「第54回関西エスペラント大会」でユニセフ写真パネル展「今、アフリカで起きていること」を開催しました。



ジャワ島地震緊急街頭募金 6/17

インドネシアで起こった今回の地震に、少しでも協力したいと神戸市東灘区の住吉駅周辺で緊急募金活動を実施しました。温かいご支援をいただきました。



神戸まつりパレード

2006年5月13日(土)、今年もまた、小雨が降る中、神戸まつりパレードに参加しました。一昨年、初出場の際に作成したユニセフカーも登場し、ボーイスカウト、ガールスカウトの子どもたちを先頭に水色の爽やかな風が吹きぬけました。



「東ティモールスタディーツアー」を振り返って

東ティモールの復興、道遙か

～ダン医師講演会に参加して

県支部ボランティア 鬼澤 康弘



赤いシャツの子

それは日本ユニセフ協会主催のスタディーツアー（2003年）で東ティモール民主共和国を訪れていた日の朝のことでした。宿舎から外へ出て、南国のきつい日差しに目をしかめると、赤いシャツを着た女の子が一人、ポツンと道端に立っていました。

年は10歳位、やせ細ったその両手には大きなポリタンクが二つぶらさがっています。どうやら水汲みをして家に帰る途中のようです。特に水の少ない乾季は、貧しい家の子どもたちは朝から水汲みの仕事に追われます。水がいっぱいに入ったポリタンクは重く、彼女の力では一気に運べないようで、途中何度も立ち止まり休憩しながら、家路を急いでいました。

ちょうどその横を、今度はノートと鉛筆を持った子ども達の集団が通り過ぎていきました。それは学校に向かう子ども達で、みんないきいきと明るい表情をしています。先ほどのポリタンクを持った女の子は、すれ違う子どもたちを見向きもせず、道の遙か向こうをじっと見つめて歩いていきました。

わたしの訪れた東ティモール共和国は、インドネシアの東、オーストラリアの北に位置する長野県程度の面積を持つ小

子どもたち



さな国です。長くポルトガルの植民地として支配を受けていましたが、太平洋戦争中の日本軍による支配などを経て、1976年にインドネシアにより一方的に27番目の州として併合されることとなり、ここから東ティモールの

人々の苦難の歴史が始まりました。

インドネシア統制下の東ティモールでは、インドネシアの圧政に抵抗する人々への弾圧や虐殺が横行し、20万人の犠牲者が出たとも言われています。その後、インドネシア本国で政変が起きたため、1999年、東ティモールは住民投票により自ら独立の道を歩むことを決めましたが、これがさらなる悲劇を生むきっかけとなってしまいました。インドネシア軍に支えられた独立反対派勢力が激しい破壊活動を展開したのです。この時、さらに多くの人々が殺され、家族や家を奪われ、心と体を傷つけられました。そして、その惨劇は各国のメディアを通じて世界中に知られることとなります。

その後、国連の多国籍軍の展開を機に、武力勢力の制圧が進み、東ティモールはようやく秩序と安定を取り戻し始めます。そして2002年5月、ついに念願の独立を果たしました。21世紀となって第一号の、新しい独立国、「東ティモール民主共和国」の誕生です。

先日、その東ティモールで内戦の混迷期から医療活動を続けている米国人医師・ダン先生と東ティモール人の女医・アイダさんが、支援団体の招きで初来日されました。5月14日には、兵庫県支部にもお越しいただき、東ティモールの現状を生のお聞きすることができました。

無償で医療活動を続ける

ダン先生のクリニックには毎日多くの来院者がやってきて、

中には Deng 熱や マラリア など 熱帯特有の伝染病に感染している重篤患者もいるそうです。不十分な設備の中、ダン先生を中心とする志のある医療スタッフがそれらの患者の診察にあたっていますが、クリニックまで来ることのできない遠隔地に住んでいる住民のために、出前診療も定期的に行っているということでした。

多いときには、200人を超す来院者がいるそうですが、ダン先生は、『そのうちの3割の人は本当に治療の必要な人だけど、残りの7割の人はよくよく診察してみると実は病気じゃないことが多いんだ』と笑いながらおっしゃっていました。しかし、ダン先生は一人ひとりきちんと診察し、病気の人には治療を施し、そうでない人には話を聞いて不安を取り除いて帰します。クリニックは今や、東ティモールの人々にとって、なくてはならない存在です。

今、東ティモールが、再び混乱の渦に巻き込まれています。政府と軍関係者の一部が対立して武力衝突にまで発展し、首都デリの市民は再び避難生活を余儀なくされています。どうやら今起きている問題は、一つのことが原因で起きたのではなく、独立の経緯の中で、あるいはそれよ以前の歴史の中で積み重ねられてきた、様々な要因がからんでいるようです。

今回の問題は、出身地方による差別問題が引き金となりましたが、それ以外にも東ティモールは多くの問題を抱えています。主要産業を持たない脆弱な経済は、多くの失業者を生み出しており、心情とは裏腹に隣の大国「インドネシア」とのつながりに頼らざるを得ない状況です。地方間格差の拡大も深刻で、インフラ整備の行き届かない山岳部などでは、最低限の医療活動でさえままならない状況にあり、



5月14日の講演会の様子

東ティモール・バイロピテクリニック院長 ダン医師講演会を開催しました

～アメリカ人医師が見る
東ティモールの今～

2006年5月14日(日) コープこうべ生活文化センター会議室で、東ティモール・バイロピテクリニック院長ダン医師の講演会を開催しました。バイロピテクリニックは「地球のステージ(東ティモール編)」の舞台となったところ。医師が不足する東ティモールで、自らの足で村の人たちを回診するダン先生の姿は、桑山さん(地球のステージ代表理事、医師)のスライド・語りを通して、後に看護師となるアイダさんの姿とともに強く印象に残っています。そんなお二人をお迎えして、お話しいただきました。



パイロピテクリニックでの日常の診療活動を中心に、患者と医療スタッフの関係など、東ティモールの厳しい医療の現状や問題点をエピソードを交えながらおだやかに話されました。とりわけ、診療所での日常の医療活動の中で、医師や薬剤師などの医療スタッフの養成、自立支援の現状について報告もいただきました。

ダン先生とアイダさんお二人の信念を持って取り組まれている姿から、命を守るということについて、また、支援のあるべき姿について、改めて考えさせられました。

水や衛生状態の悪さから生じる病気の罹患率や死亡率はとて高く、妊産婦死亡率にいたっては世界でもワーストに近い数値です。教育について言えば、独立後、各国の緊急支援で多くの校舎が立て直され、学校に通う子どもの数も増えてきましたが、ポリタンクを抱えた赤いシャツの女の子のように、復興に取り残されてしまった子ども達もまだまだ多くいます。

これらは、一朝一夕に片付く問題では決してないでしょう。独立国として自分の足で歩きはじめた東ティモールの人々が、自ら時間をかけて解決していかなければならない問題なのかも知れません。それは、ダン先生が何百人という来院者を一人ひとり診察する作業に似ています。高価な医薬品を用いての治療が必要な場合もあれば、不安を取り除くために話を聞いてあげることが一番の治療となる場合もあるでしょう。

であれば、そこに住む人々の窮状に関心を持ち、それに対しほんの少しでも行動を起こす姿勢があることを示せれば、私達にだって、彼等の不安を幾分か解消させることもできるのではないのでしょうか。

先日のダン先生の講演を聞き、赤いシャツの女の子を思い出しました。一人でも多くの東ティモールの子ども達が、ポリタンクではなく、ノートや鉛筆をもって元気に学校に行ける日がくることを切に願い、これからも東ティモールとの関わりを続けていきたいと思います。

参加者の感想から

改めて今出来る事は何かと考えさせられた、日本は閉ざされていない、という言葉が心にしみた。大変な環境の中での医療活動にただただ驚いている、日本の豊かさを改めて感じた。東ティモールの曲はのんびりした心とませる音楽だった、現状のお話を聞くにつけそのギャップに心痛む。ダン先生は想像していたよりおだやかでウィットに富んだ楽しい人、内容は重いのになんか淡々と切り交えながら話されるのが反対に現実の重みを感じさせた。アイダは思っていたよりずっと小さくて驚いた。今私たちに出来る事で一番してほしいと思ってる事は何でしょう。独立後、国としての機能は整ってきているか? 富裕層との医療格差は無いのか? 継続して状況を知りたいと感じた。

* ご協力ください *

ユニセフ募金 ～ご家庭で学校で職場で～

いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子どものための支援活動に使われます。

郵便振替でお願いします

口座番号: 00190-5-31000

加入者名: (財)日本ユニセフ協会

通信欄に「K1-280兵庫」とご記入ください。

会員として ユニセフ協力活動を行なう日本ユニセフ協会を、会費によって支援します。

一般会員...個人ならどなたでも 1口 5,000円

学生会員...18歳以上の学生 1口 2,000円

団体会員...団体、法人、企業 1口100,000円

申込み方法についてはお問い合わせください。

● 緊急募金のお願い ●

ジャワ島地震緊急募金

郵便振替: 00110-5-79500 (送金手数料免除)

通信欄に「ジャワ島 K1-280兵庫」と記入

パキスタン地震緊急募金

郵便振替: 00110-5-79500 (送金手数料免除)

通信欄に「パキスタン K1-280兵庫」と記入

スーダン・ダルフル緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000

通信欄に「スーダン K1-280兵庫」と記入

アフガニスタン復興募金

郵便振替: 00190-5-31000

通信欄に「アフガニスタン K1-280兵庫」と記入

アフリカ緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000

通信欄に「アフリカ K1-280兵庫」と記入

東ティモール緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000

通信欄に「東ティモール K1-280兵庫」と記入

パレスチナ緊急募金

郵便振替: 00190-5-31000

通信欄に「パレスチナ K1-280兵庫」と記入

【共通】口座名義: 財団法人日本ユニセフ協会

募金は郵便局指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。

ボランティア募集

世界の子どものこと知りたいと思いませんか? 学習会、イベント参加、カード頒布、事務局運営、広報など、関わり方はいろいろあります。若者たち(高校生～大学生)のグル-ブUNIESも参加しています。活動を通じていろいろな人たちとの出会いが広がります。一度のぞいてみてください。

- 学習会
- イベント参加
- カード頒布
- 事務局運営
- 広報